



INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

# ザ☆ジャーナル!!

National Hospital Organization Okayama Medical Center

Vol.21  
No.2

2026.7

やさしさ便り～国立病院機構岡山医療センターの今

## CONTENTS

地域災害拠点病院  
地域医療支援病院  
地域がん診療連携拠点病院  
総合周産期母子医療センター

### 岡山医療センターの理念

#### 今、あなたに、信頼される病院

－病める人への献身、  
医の倫理に基づく医療への精進と貢献－

- 1: 医学的根拠に基づいた高度で良質な医療を提供します
- 2: 病める人の権利と意思を尊重した、安心安全な医療を提供します
- 3: 地域の中核病院として医療連携を通じ、地域社会に積極的に貢献します
- 4: 教育研修病院として医師、看護師等医療に従事する人材育成に努めます
- 5: 医学の進歩に貢献するために、臨床研究を積極的に行います
- 6: 職員が仕事に誇りと充実感を感じられる病院作りをめざします
- 7: 上記6項目を実現し維持するため、健全な病院運営に努めます

- 2 特集: 第18回地域医療連携のタペ開催しました!
- 4 特集: 耳鼻咽喉・頭頸部外科
- 6 特集: 緩和ケア内科・緩和ケア推進室
- 8 看護師特定行為研修室通信
- 9 第66回日本呼吸器学会学術講演会「末梢神経障害を伴う好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対してベンラリズマブが奏功した一例」の報告において最優秀賞受賞／小児アレルギーエデュケーター・アレルギー疾患療養指導士の資格を取得しました!
- 10 初期研修医通信／子どもたちとご家族のために
- 11 臨床研究推進室便り／金川病院だより
- 12 薬だより
- 13 たまにはクラシック
- 14 看護助産学校通信
- 16 歯科だより／医療安全レポート



岡山医療センター  
ホームページ

## 第18回地域医療連携の夕べ 開催しました！



■統括診療部長 太田 康介

今年も当院主催の「地域医療連携の夕べ」を開催しましたのでご報告いたします。

この会は、当院が診療連携しているクリニックや病院の先生方・メディカルスタッフの方と、当院職員とが一堂に会して交流する機会として毎年開催しています。私たち病院医師やスタッフにとっては患者さんのことで日頃から名前は知っているけれど、お会いしてゆっくり話をすることがない先生方が意外と多く、このような会は貴重な時間になります。今回で18回目になりました。

今回は都合で例年と違う会場で開催しました。そのため事前のご案内は入念におこないました。私自身も会場を間違えないように、何日も前から何度も何度も、会場

名を口ずさんでいました。

数日前には梅雨があけ、当日は曇りがちではありましたが夕方気温は30度以上のなかで、開始の30分前にはかなりの方が到着されていました。すでにあちこちで交流が始まっていました。

会は予定時刻通り開会しました。

まず柴山院長から開会の言葉と、引き続いて当院の現状について説明がありました。病院の現状、ロボット手術（ダヴィンチや整形外科）や診療科の新しい取り組み、職員の紹介、院内行事での職員の楽しそうな姿などが紹介されました。続いて金川病院の大森院長から金川病院の現状と、来年度から病院の運営者がかわることが説明さ





れました。新任幹部職員紹介、新任医長紹介に引き続き、岡山県医師会長の内田耕三郎先生による乾杯のご発声を頂きました。

乾杯のあとは、食事と歓談です。さっそくあちこちで話に花が咲きました。近況報告から始まり、仕事上の話題、周辺の話、最近のはやり事についてなど様々でした。時節柄、サッカーワールドカップの話題（その時点でベスト4）も聞こえてきました。今年は立食形式であったため、皆さん好きなものをお取りになりながら、しばらく話し込まれたり、時々移動したり、あるいは椅子に座ってくつろがれながら思い思いに連携の時間を過ごされていました。

途中、職員紹介の動画（幹部医師と医長）と、話題提供として産科吉田医師（プレコンセプションケア）、消化器内科万波医長（胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的胃局所切除術）、脳神経外科吉田医長（三叉神経痛や水頭症の手術）、平見診療部長（病院Instagram紹介）がお話をしました。

最後は松原副院長が閉会の辞を述べて、閉会となりました。

連携施設の多くの方にご出席頂き、主催者側としては感謝の気持ちで一杯です。このような形で地域の先生方と引き続き密な連携を保ちながら、当院の使命である地域の医療に引き続き貢献できればと存じます。





## 地域の皆様に寄り添い、みみ・はな・のどの丁寧な専門医療の提供を目指しています

耳鼻咽喉・頭頸部外科は、みみ・はな・のど・首の不調を診察する診療科です。対象とする範囲は、頭頸部（顔面から首まわり）と狭いですが、対象疾患としては中耳炎・副鼻腔炎・咽喉頭炎などの炎症性疾患、アレルギー疾患、難聴・めまい・睡眠時無呼吸などの機能にかかわる疾患、耳下腺・顎下腺を含む首のしこり・咽頭癌・喉頭癌などの良性・悪性を含む腫瘍性疾患まで様々です。

「聞こえにくい」「鼻が詰まって苦しい」「匂いがしない」「のどに違和感がある」といった日常のお悩みに対して、専門的な立場から、患者さんが安心して健やかな毎日を送れるよう、質の高い医療の提供に努めています。

## 医師4名での（専門医2名を含む）医療体制

当科は総勢4名のスタッフで日々の診療にあたっています。そのうち2名は日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会認定の専門医資格を保有しており、専門的な知識と経験に基づいた的確な診断と治療を目指しています。スタッフ4名が常に緊密に連携（チーム医療）を取り、患者さん一人ひとりの病状や不安に深く寄り添える体制を目指しています。



外来診察風景

## 年間500件超の手術治療

お薬などによる保存的治療だけでなく、手術加療にも積極的に力を入れています。年間約500件超の全身麻酔下の手術を行っており、扁桃肥大や慢性扁桃炎に対する扁桃摘出術、慢性副鼻腔炎（いわゆる蓄膿症）に対する内視鏡手術、アレルギー性鼻炎に対する手術、耳下腺・顎下腺の腫瘍の手術など、耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の一般的な手術が多いですが、安全性の高い手術を目指して治療しています。



頭頸部手術の様子



ナビゲーションシステムを用いた内視鏡下鼻内副鼻腔手術の様子

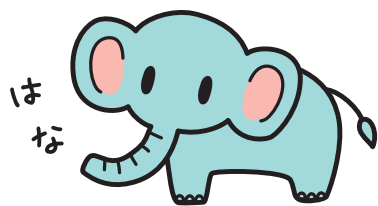
## 主な診療対象・症状

当科では、以下のような症状や疾患に対して専門的な検査・治療を行っています。

| 対象部位 | 主な症状・疾患                            |
|------|------------------------------------|
| み み  | 中耳炎、難聴、耳鳴り、耳だれ、メニエール病などの「めまい」など    |
| は な  | 副鼻腔炎(蓄膿症)、アレルギー性鼻炎(花粉症)、鼻出血、鼻腔腫瘍など |
| の ど  | 扁桃炎、咽喉頭炎、声枯れ(嚙声)、のどの異物感、味覚障害など     |
| その他  | 首のしこり(頭頸部腫瘍)、睡眠時無呼吸症候群(いびき)など      |

## 受診をお考えの患者さんへ

上記領域の症状でお困りの際は、かかりつけ医から紹介状をお持ちいただき、まずは一度ご相談ください。みみ・はな・のどの不調は、聴こえや会話、食事などの飲み込み、睡眠といった「生活の質」に直結する大切な部分です。患者さんが納得できる治療に向けて、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明することを大切にしています。皆様のご来院をお待ちしております。



耳鼻科聴力検査室



2006年にがん対策基本法が制定され、がん患者の療養生活の質の向上のために「国及び地方公共団体はがん患者の状況に応じて緩和ケアが診断の時から適切に提供されるようにすること」が求められました。当院では

2006年に多職種からなる緩和ケアチームが活動を開始し、2016年4月から緩和ケア内科が診療を開始してがん患者さん等の苦痛の緩和に努めています。

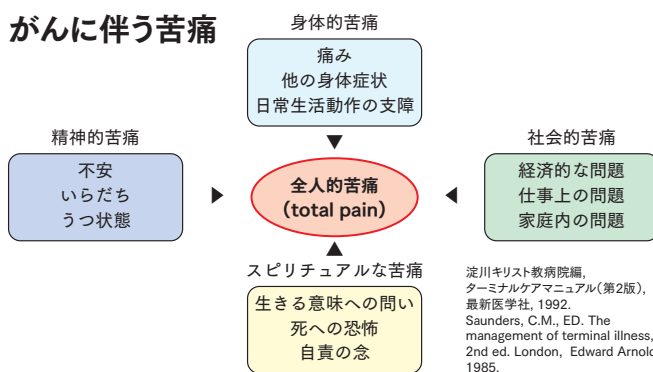
## 緩和ケアとは

「緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOL（生活の質）を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである。（2002年WHO）」と定義されています。

緩和ケアの対象となるのは、がん患者さんだけではなく、重い病を抱える患者さんと、そのご家族の様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアを行います。QOLを高め、病の経過にも良い影響を及ぼす可能性があるとしており、診断された時

から治療と並行して提供されるべきものと考えられています。

## がんに伴う苦痛



## スタッフ・施設認定

病気に伴う苦痛は、痛みなどの身体の苦痛だけではありません。全人的苦痛に対応するために、緩和ケアに関する専門的な知識や技能を有する多職種が緩和ケアチームを組織して活動しています。

2026年7月現在、緩和ケアチームは、緩和ケア内科医師（日本緩和医療学会緩和医療専門医）、精神科医師、呼吸器内科医師、消化器内科医師、乳腺・甲状腺外科医師、放射線治療医師、がん看護専門看護師、薬剤師2名（日

本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師）、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、歯科衛生士、公認心理師、理学療法士4名（がんリハビリテーション研修修了）の17名で緩和ケアを必要とする患者さんご家族に対応しています。

また、当院は日本緩和医療学会の認定研修施設に認定されており、専門医取得を目指す医師への指導体制も備えています。

## 緩和ケア内科の診療

緩和ケア内科は月曜日の午後に完全予約制の外来診療を行っています。入院中から診療を行っている患者さんについては、主診療科の外来受診や外来化学療法のタイミングに合わせて診療を継続し、痛み、嘔気、食欲不振、全身倦怠感、腹部膨満感など、主として身体の苦痛症状の緩和に努めています。気持ちのつらさや不安、

経済的問題などに関しても、専門職種と連携して外来でも対応しています。

入院患者さんに対しては、主診療科や病棟スタッフからの依頼を受け、原則として緩和ケアチームの一員として介入し、全人的苦痛の緩和に努めます。

## 緩和ケア推進室の活動

緩和ケアチームの活動は、がん等の患者さんが診断されたとき、入院されたときから始まります。からだここのの質問票を用いて、患者さんの苦痛のスクリーニングを行い、各診療科の医師や外来・病棟のがん看護コナース等と連携して緩和ケアを必要とする患者さん把握し、介入の必要性を検討します。

緩和ケアチームが介入している患者さんに関しては、日々多職種が関わり、様々な苦痛に対応します。週1回の緩和ケアチーム全体カンファレンスを開催し、医療用麻薬を使用している入院患者さんと緩和ケアチームが介入している患者さんについて情報共有と症状緩和の内容についての検討を行います。その後、各病棟を回って病棟スタッフとの情報共

有と症例検討を行っています。2024年度には1154症例についてカンファレンスで検討を行い、251人の入院患者さんに3000回を超える回診を行いました。

アドバンス・ケア・プランニングの推進も重要な課題と考えて活動しています。アンケート、パンフレット、記入用冊子の作成等を行い、院内研修会の開催などを通じて、アドバンス・ケア・プランニングの普及と実践に努めています。



## 緩和ケア研修会・講演会など

がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術・態度を修得することで、緩和ケアを必要とする患者さんご家族に適切に緩和ケアが提供できるようになることを目的に、年1回、緩和ケア研修会を開催しています。医師・歯科医師のみならず、看護師、薬剤師をはじめとする多職種が受講し、緩和ケアを学んでいます。

不定期ではありますが、外部講師を招いて医療者対象の緩和ケア研修会を開催しています。前回は2024年3月に「死にゆく人と、どう話すか」というテーマで日本赤十字社医療センターの國頭 英夫先生にご講演いただきました。院外からも多数参加いただき、ご好評をいただいたことから、また皆様の役に立つ研修会を企画したいと考えております。



## 終わりに

緩和ケアを必要とされる患者さんご家族に適切な緩和ケアを提供できるように、緩和ケア内科・緩和ケア推進室のメンバーが連携して努めて参りますので、ご指導、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日中は苦痛がなく、笑顔で過ごすことができ、夜間はゆっくり眠ることができるようなケアを提供する



緩和ケアチームのロゴマーク

# 看護師特定行為研修室通信

## ー令和8年度の研修『共通科目』が始まりました！ー



■特定行為研修室 小倉 望、佐藤 彩夏

### ●特定行為とは

高度で専門的な知識・技能を特定行為研修により身につけた看護師が、医師による手順書をもとに行う診療の補助のことです。特定行為研修を修了した看護師が、手順書をもとに患者さんの状態を判断することで、医師が身近にいない場合も必要な医療サービスを適切なタイミングで実施することができます。

### ●当院の特定行為研修について

2022年度より特定行為研修を始め、今年度で5年目になりました。院内外より8名の研修生が5月より研修を受講しており、現在「共通科目」を履修中です。

共通科目とは、全ての特定行為区分に共通した科目で、「臨床病態生理学」「臨床推論」「フィジカルアセスメント」「臨床薬理学」「疾病・臨床病態概論」「医療安全学」「特定行為実践」の7科目を250時間以上学習します。Eラーニングでの講義だけでなく、事例やロールプレイなどを通して学ぶ演習や、シミュレーターを用いて診療技術を学ぶ教室内実習など様々な学習方法があります。

共通科目を学ぶことは、臨床での思考力・判断力の向上に繋がります。急性期・慢性期・在宅などどの分野においても、この共通科目を履修した特定行為研修の修了者が活躍することで、より安全で質の高い医療・看護の提供が可能になります。

当院では、看護の視点に加えて、医学の視点からも患者さんの状態を見極めることのできる特定看護師の育成に努めてまいります。

受講生の所属施設・部署は様々ですが、それぞれの経験や知識を共有し、相互に高め合いながら学習を進めています。



#### ■演習風景（グループワーク）

事例検討もみんなでディスカッションをすることでより深められます。



#### ■教室内実習風景（ロールプレイ）

学習したことを、実際にロールプレイを通して実施してみることで、よりその難しさに気づき、新たな学びも得られます。

# 第66回日本呼吸器学会学術講演会「末梢神経障害を伴う好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対してベンラリズマブが奏功した一例」の報告において最優秀賞受賞

■放射線科専攻医 堺 莉恵

専攻医1年目の堺莉恵と申します。私は第66回日本呼吸器学会学術講演会「ことはじめ甲子園」において、「末梢神経障害を伴う好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対してベンラリズマブが奏功した一例」について発表させていただきました。ことはじめ甲子園とは、各支部の地方会で発表した演題を再度発表できる機会です。初めての全国学会で緊張もありましたが、2回目の発表ということもあり落ち着いて発表することができ、最優秀賞を受賞することができました。

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)は、好酸球増多を伴い血管炎を生じることで起こる全身性の自己免疫疾患です。特に末梢神経障害によるしびれや脱力はほとんどの患者さんにみられますが、治療抵抗性で不可逆的となることも多いとされています。ベンラリズマブは2024年に日本でEGPAへの適応が承認された生物学的製剤であり、今回、早期導入に

より症状の著明な改善を認めた症例を経験しました。研修医1年目のときに入院時より担当させていただいた患者さんであり、実際に症状が改善していく様子を目の当たりにできたことは非常に嬉しく、印象深い経験になりました。EGPAの末梢神経障害に対するベンラリズマブの有用性についての報告はまだ限られていますが、本発表が今後のEGPA診療の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただき、丁寧にご指導くださいました松岡先生、主治医の瀧川先生をはじめとして、ご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。少しでも患者さんのお役に立てるよう、今後も研鑽を重ねてまいりたいと思います。



## 小児アレルギーエドューケーター・アレルギー疾患療養指導士の資格を取得しました！

■外来看護師 平井 幸代



小児アレルギーエドューケーター(PAE)・アレルギー疾患療養指導士(CAI)の資格を取得しました。PAEは岡山県内で15人目となります。PAE・CAIは、アレルギー疾患管理においてアドヒアランスをアセスメントし、実効性の高い具体的な指導、患者・家族が納得した治療の受け入れ、治療継続のための環境や支援体制を調整するなどの臨床活動に加え、専門職者への教育や地域への啓発等、アレルギー医療の均てん化において役割を果たします。

小児科外来には食物アレルギーを中心に多くのアレルギー疾患を抱える子供達が長期間通院しています。「アレルギーマーチ」と称されるように、幼少期より次々に他のアレルギー疾患を併発することが指摘され、現在日本人の2人に1人はアレルギー疾患を有すると言われています。小児のアレルギー疾患は、複数の診療科で治療が行われることも多く、複数の医師の指示を実践する必要があり、治療管理

で悩まれるご家族が多い実情があります。日々の管理の複雑さが症状のコントロールに影響し、管理が困難となる場合もあります。特に成長発達の過程にある小児は、アレルギー症状による身体的発育や睡眠・集中力への影響も大きな問題となるため、成長・発達段階に合わせた適切な介入を継続して行う必要があります。患者さんご家族の変化するライフステージを見据えた継続的な支援が必要と感じ、資格取得を目指しました。資格取得により成長発達過程に合わせた対応を、専門知識を持って行うことが可能となりました。アレルギー疾患があってもその子らしく成長し、自己管理に向けてバトンタッチしていくためのお手伝いをさせていただきます。スキンケアや吸入の指導、免疫療法や自己注射の導入など、様々なアレルギー疾患管理での困り事など、気軽にご相談ください。



## 初期研修医通信

■初期研修医 本田 航大



こんにちは。初期研修医2年目の本田航大と申します。暑さが日ごとに増してまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

当院での初期研修も2年目を迎えました。昨年4月に入職した頃は、救急外来や病棟での診療において、目の前のことに対応するだけで精一杯の日々でした。患者さんの訴えをどのように受け止め、どのように評価し、次に何を考えるべきか、迷う場面も多くありました。そのたびに、指導医や上級医の先生方、看護師をはじめとする多職種の皆様に支えていただき、診療の基本だけでなく、患者さんに誠実に向き合う姿勢を学んでまいりました。

4月からは1年目の研修医が入職し、自分自身も後輩と関わる機会が増えました。教える立場になることで、自分の理解が不十分であったことに気づかされることも多く、日々学び直しの連続です。同時

に、昨年自分が多くの先輩方に支えていただいていたことを改めて実感しています。

このたび、日々の研修に対して評価をいただく機会にも恵まれましたが、まだまだ未熟であり、学ばべきことの多さを痛感しております。これまで支えてくださった皆様への感謝を忘れず、今後も一つひとつの経験を大切にしながら、少しでも成長できるよう努めてまいります。

残りの研修期間も、患者さんにとってより良い医療とは何かを考え続け、目の前の診療に誠実に取り組んでまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 子どもたちとご家族のために —横浜幸銀様よりご寄付をいただきました—

■6B病棟看護師長 藤本 縁



このたび、横浜幸銀様よりご寄付をいただきました。

横幸興銀様からのご寄付は今回で6回目となります。長年にわたり、病気と向き合う子どもたちやそのご家族への温かいご支援を継続していただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

いただいたご寄付は、入院中の子どもたちが発達段階に応じた遊びや学習の機会を得られるよう、療養環境の充実に活用させていただく予定です。病気や治療による制限がある中でも、子どもたちがその子らしく成長し、学び、楽しむことができる環境づ

くり役に立ててまいります。

また今回は、子どもたちだけでなく、ご家族の付き添い環境の改善にも活用させていただきたいと考えております。入院生活を支えるご家族が少しでも安心して過ごせる環境を整えることは、子どもたちの療養生活を支えるうえでも大切であると考えています。

横浜幸銀様のご厚意に深く感謝申し上げますとともに、ご寄付の趣旨を大切にしながら、子どもたちとご家族のために有効に活用させていただきます。



2026年3月2日 贈呈式



ご寄付を活用して購入したおもちゃは、子どもたちに大人気です。



ご寄付いただいた「くまのがっこう」のぬり絵。子どもたちは思い思いの色を使いながら、楽しく取り組みました。

## 臨床研究 推進室便り

医学の進歩に積極的に  
関与する部署です。



■治験管理室 西山 美登利

日ごとに暑さが増してまいりました。  
皆様におかれましては、体調を崩されませんよう、  
どうぞご自愛ください。

さて、今回は最近の治験管理室のトピックスをご  
紹介いたします。

### ■5月よりCRCが1名加わりました。



5月より、CRC（臨床研究コー  
ディネーター）として福山麻里が着  
任いたしました。



まだ不慣れな点も多くございます  
が、治験管理室スタッフ一同、力を  
合わせて業務に取り組んでまいります。どうぞよろ  
しくお願いいたします。

### ■小児治験に取り組んでいます！

全国的にも小児治験を実施している医療機関は限  
られていますが、当院はその一施設として取り組ん  
でいます。

お子様にとって病院は、どうしても「怖い場所」  
と感ずることが多いものです。そのため、治療や治  
験を頑張っているお子様の緊張を少しでも和らげら  
れるよう、育葉室をお子様の好きなキャラクターで

装飾しています。（写真のものは梅雨をイメージしま  
した）

また、季節ごとに模様替えを行うなど、いつ来て  
も楽しんでいただけるよう工夫しています。

患者様ご本人はもちろん、ご家族の皆様にも好評  
をいただいております。私たちにとっても大きな励みと  
なっています。

これからも、お子様の「少し怖いな」という気持  
ちを和らげ、「楽しかったな」と感じていただけるよ  
うな環境づくりに努めてまいります。



## 岡山医療センター分院 金川病院だより

■管理栄養士 笠井 淑子



栄養管理室では、患者さんに安全で美味しい食  
事を提供できるよう給食管理業務を行うとともに、  
栄養状態の改善やQOL向上を目指した栄養管理  
業務を行っています。

昼食時には患者さんのもとへ訪室し、伺ったお  
話や摂取状況から、個々の患者さんに合わせた食  
形態や嗜好に対応した食事内容に調整していま  
す。また、金川病院ではMCTオイルやプロテイン  
パウダーなどを主食へまぜて栄養量アップを図る  
「強化主食」を導入しており、必要な栄養量を確保  
できるよう工夫しています。規模が小さい病院で  
あるからこそ、より個々の患者さんの摂取状況に  
応じた食事提供ができるように感じています。

右の写真は昨年度、行事食で提供したお食事で

す。入院中でも季節を感じてい  
ただけるよう、行事食とメッセージカードをつけて  
提供しています。また、月に数回変わりご飯（炊  
き込みご飯・ちらし寿司）や麺類（焼きそば・け  
んちゃんうどん）などの提供もあります。患者さん  
からの「嬉しい」「美味しかった」「昔を思い出  
して懐かしい気持ちになった」といった言葉を励み  
に、お食事を楽しんで  
いただける  
よう日々努  
力していき  
ます。





# 薬だより

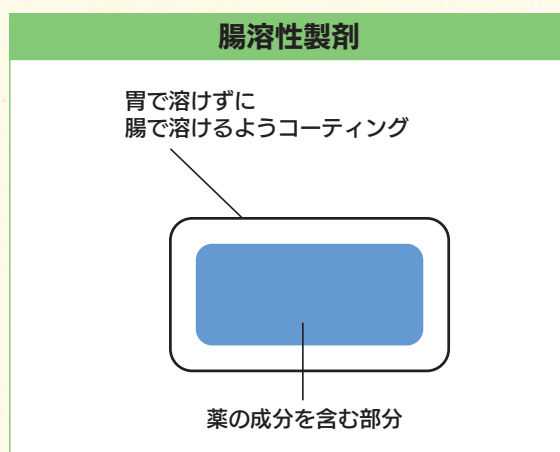
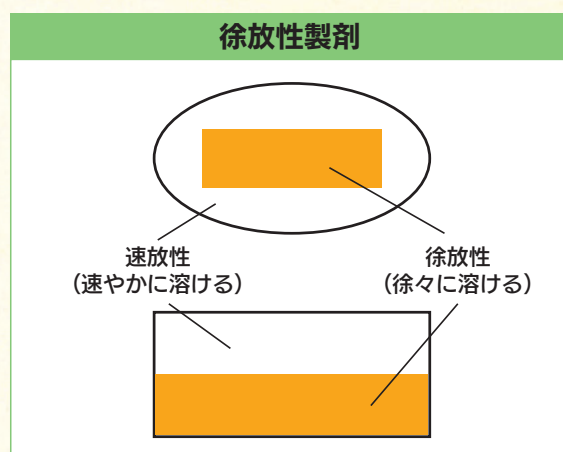
Message from the pharmacist

■薬剤部 重松 明優理、亀山 藍衣

## 安全に薬を使うために ～その薬 割ったり、砕いたり、嚙んだりしても大丈夫？～

皆さんはお薬を飲むときに、大きくて飲みづらいな、などと思ってお薬を割ったり、砕いたり、嚙んだりした経験はありませんか。実際に、最近では簡単に錠剤を半分にできる道具や砕いたりできる道具が一般向けに販売されているのを見かけます。しかし、お薬によっては割る（分割）、砕く（粉碎）、かみ砕くといったことをしてしまうと、薬の効果が十分に得られなかったり、副作用が発現したり、苦味や酸味が増したりするものがあります。今回はそのようなお薬を製剤の特徴を踏まえて紹介します。

|       | 特 徴                                                                                  | 分割、粉碎、かみ砕くことにより起こりうること                          | 薬剤の例                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 徐放性製剤 | 有効成分の放出速度、放出時間、放出部位を調節された製剤。<br>服用回数の減少や血中の有効成分濃度を一定に長時間保つことで副作用を軽減させることを目的としています。   | 急激な血中濃度上昇により重篤な副作用が発現する恐れがあります。                 | テオフィリン徐放錠、ニフェジピンCR錠、ベタニス錠、フェロ・グラデュメット錠、ワントラム錠など |
| 腸溶性製剤 | 有効成分を胃中で放出せず、腸内で放出するように設計された製剤。<br>有効成分の胃内での分解を防いだり、有効成分の胃に対する刺激作用を軽減させることを目的としています。 | 胃酸による失活のため期待する効果が得られなくなったり、消化器系の副作用が発現しやすくなります。 | オメプラゾール錠、パリエット錠、バイアスピリン錠、リアルダ錠など                |



今回紹介しなかったものの他に、内容物が液体のため開封できない軟カプセル剤（イコサペント酸エチルなど）や細胞毒性があるため粉碎や開封ができない薬剤などもあります。

錠剤が大きくて飲みにくいなどありましたら、お薬によっては他の剤形へ変更できる場合がありますので、医師や薬剤師へご相談ください。自己判断で服用時に割ったり、砕いたり、嚙んだりしないようにしましょう。

参考文献：医薬品医療機器総合機構 PMDA 医療安全情報 No.65 2023年3月  
第十四改定 調剤指針 日本薬剤師会編 薬事日報社

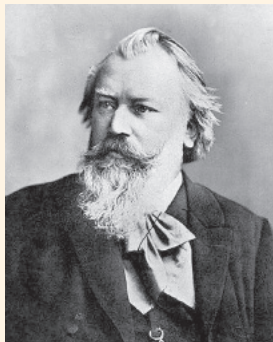


## 作品名: 間奏曲 イ長調, 作品118, 第2番

Intermezzo in A major, Op.118, No. 2 - Andante teneramente

作曲者: ヨハネス・ブラームス, Johannes Brahms (1833-1897)

■クラシックソムリエ 米井 敏郎



ヨハネス・ブラームス

ブラームスは、ピアノの独奏のために、「8つの小品 Op.76」, 「7つの幻想曲 Op.116」, 「3つの間奏曲 Op.117」, 「6つの小品 Op.118」, 「4つの小品 Op.119」の5つの小品集を作曲しています。この作品118は1893年に完成した最後から2番目の小品集であり、シューマンの妻、クララに献呈されています。全部で6曲からなり、昔日を懐かしみ愛おむような曲想がちりばめられており、心に深く染み込む作品です。特にこの作品118の第2番は、聴くたびに懐かしく、涙が溢れてくるのは私だけでしょうか?

No. 1. Intermezzo in A minor. Allegro non assai, ma molto appassionato

No. 2. Intermezzo in A major. Andante teneramente

No. 3. Ballade in G minor. Allegro energico

No. 4. Intermezzo in F minor. Allegretto un poco agitato

No. 5. Romanze in F major. Andante

No. 6. Intermezzo in E flat minor. Andante, largo e mesto

6曲中4曲は インテルメッツォ、すなわち間奏曲という標題で、残りはバラードとロマンスです。今回とりあげた第2番の間奏曲にはイタリア語の発想標題, "Andante teneramente" という指定があります。この "andante" はもちろん「歩くような速さで」という意味ですが, "teneramente" という言葉にはあまり馴染みがないかもしれません。テネラメンテとは、「愛情を持って、優しく愛を込めて」という意味の音楽用語で、ベートーヴェンやブラームスが曲想をあらわすのに好んで使用した味わい深い言葉です。ベートーヴェンはピアノ・ソナタの第27番、第30番で使用しています。ブラームスは、作品116-6のホ長調の間奏曲でも, "Andantino teneramente" として使用しています。

さて、お奨めのCDですが、1. Peter Rösel (1945-), [1973年録音, Deutsche Schallplatten]. まだアナログ録音の時代です。ペーター・レーゼは東独ドレスデン出身のピアニストで、ドイツ・シャルプラッテン・レーベルに数多くの録音を行っていました。もちろん、ベルリンの壁の崩壊が1989年なので、まだドイツが東西に分かれ

ていた時代です。演奏は今でも素晴らしいと思います。2. Hélène Grimaud (1969-), エレーヌ・グリモーはかつて、フランスの天才少女と呼ばれていたピアニストです。グリモーには、Denonレーベルへの1991年録音と、Eratoレーベルへの1995年録音の2種類があります。いずれも素晴らしい演奏だと思いますが、ひとつだけ選ぶならエラート盤になります。3. Ivo Pogorelich (1958-), [1992年録音, DG]. イーヴォ・ポゴレリチはクロアチアのピアニストです。ユーゴスラヴィアの首都ベオグラードで生まれました。この頃のポゴレリチは最高でした。ゆっくりとしたスピードで、内省的な音楽をじっくりと聴かせます。通常5分~7分で演奏される曲ですが、ポゴレリチは何と8分49秒もかけて演奏しています。4. Valery Afanassiev (1947-), [1992年録音, Denon]. ヴァレリー・アフアナシエフ(ワレリー・アフアナシエフとも)は、モスクワ出身のピアニスト、詩人、作家です。5. 小山実稚恵 (1959-), [2012年録音, Sony]. ブラームスの作品だけを収録したアルバムはまだありません。『ヴォカリーズ』というデビュー25周年記念のオムニバスアルバムに、作品118-2と作品117-3の間奏曲が収録されています。

さて、YouTubeです。1. Anna Fedorova, 恐らく2015年頃の収録ではないかと思います。情感に溢れたしっとりとした演奏で、映像也非常に美しいと思います。タイトルは, "Johannes Brahms - Intermezzo in A major, Op. 118, No. 2 - Anna Fedorova" です。2. 三上結衣 (1997-), 2015年8月28日, 台東区生涯学習センターミレニアムホールにて収録。演奏当時、高校3年在学中だったようですが、この演奏はとても素晴らしいと思います。聴いていて心が揺さぶられてしまいます。タイトルは, "Brahms: Intermezzo in A major Op.118-2 / Yui MIKAMI(pf) The Yasuko Fukuda Audition 2015" です。3. Romain Descharmes (1980-), 2015年10月14日, パリのサル・ガヴオー(Salle Gaveau)で収録。ロマン・デシャルムはフランスのナンシーで生まれました。Jacques Rouvier (1947-)やBruno Rigutto (1945-)に師事しました。2006年のダブリン国際コンクールで最優秀賞を受賞しています。タイトルは, "Brahms - Intermezzo op.118 n°2 - Romain Descharmes" です。

この作品は限りなく優しく懐かしいのです。フランスの作家, Françoise Sagan (1935-2004)の著作に『ブラームスはお好き』(原題: Aimez-vous Brahms ?)がありますが、貴方はブラームスはお好きでしょうか?

## 岡山看護助産学校に入学して

■看護学科 第28期生 岡部

私たち看護学科第28期生は、4月9日に入学しました。入学式では自分たちの夢や目標を再認識することができました。入学当初は慣れない環境に戸惑うこともありましたが、講義や演習、クラスメイトとの関わりを通して、少しずつ学校生活に慣れてきました。これから学習内容はさらに専門的になり、

課題や実習など取り組むことが増えていくと思いますが、初心を忘れず一つひとつの学びを大切にしていきたいです。そして、講師の先生方や病院スタッフの皆様、常に周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、充実した3年間を送っていききたいと思います。

■助産専攻科 第16期生 有藤

私たち助産専攻科第16期生は、入学後、助産に関する専門的な知識や技術などを学び始めると同時に、実践に向けた演習が始まり、現在は妊婦健康診査OSCE（客観的臨床能力試験）に向け、臨床現場を想定した正確かつ安全な技術習得や保健指導案作成に皆で協力し合いながら日々励んでいます。講義

や演習の難しさもありますが、助産専攻科で学ぶ毎日、看護学生時代とは違う緊張感もあり充実しています。周りの人や日々の学びに感謝して、一人ひとりが思い描く助産師となれるよう、皆で協力し努力していきたいと思っています。



## 令和8年度 新職員の紹介

令和8年4月に着任いたしました、教育主事 山口理世、教員 新居由美子・中本裕美、専任実習指導者 有森陽子です。どうぞよろしくお願いいたします。

学校の教育理念である「博愛・叡智・自律」を基盤として、学生の皆さんが日々の学習を通し、周囲の人々と人間関係を形成し、他者への思いやりと優しさ、責任ある行動がとれる人間性豊かな人となるよう支援していきたいと考えております。

学生の皆さんの夢が叶えられるように、

全力でサポートしたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 国立病院機構 岡山医療センター 附属岡山看護助産学校

令和9年度  
学生募集中

【看護学科】 1 学年定員80名（3 年課程）

| 区分   | 特別推薦入試<br>【指定校推薦】<br>【院長推薦】 | 一般推薦入試                                                    | 社会人入試     | 一般入試                                                                  |
|------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------|
| 試験日  | 令和8年10月9日(金)                | A日程 令和8年10月9日(金)<br>B日程 令和8年11月13日(金)<br>C日程 令和8年12月4日(金) |           | A日程 令和9年1月19日(火)<br>B日程 令和9年2月16日(火)                                  |
| 試験科目 | 面接                          | 小論文<br>面接                                                 | 小論文<br>面接 | 国語：現代の国語・言語文化<br>(近代以降の文章)<br>英語：英語コミュニケーションⅠ<br>面接<br>※学科は全問マークシート方式 |

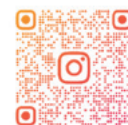
【助産専攻科】 学年定員16名（修業年限1年、適格専攻科）

| 区分   | 特別推薦入試<br>【指定校推薦】 | 社会人推薦入試<br>【指定施設推薦】 | 一般入試           |
|------|-------------------|---------------------|----------------|
| 試験日  | 令和8年10月13日(火)     |                     | 令和9年1月8日(金)    |
| 試験科目 | 母性看護学、小論文、面接      |                     | 母性看護学、基礎看護学、面接 |

看護師・助産師を目指す皆さんの受験をお待ちしています。  
詳細は看護助産学校ホームページ・募集要項をご覧ください。  
また、Instagramからもお知らせを配信しています。



看護助産学校 HP



@OKAYAMAKANGO\_NHO  
学校公式 Instagram



## 最近の朝の習慣

■歯科医長 山近 英樹



「次回受診の直前にお電話いただき、歯科用の麻酔薬があるか確認してから来院してください。」しばらく、患者さんとこんな会話をすることがつづいていました。歯科用局所麻酔薬の全国的な供給不足により、診療時に麻酔薬が確保できない事態が現実起きていたためです。

発端は、国内で圧倒的なシェアを持つ歯科用麻酔製品の製造ラインにあると聞いています。数年前から出荷調整が続いており、2025年秋以降に生じたトラブルの影響がまだのこっているようです。この主力製品が安定供給されなければ、残る製品だけで全国の需要をまかなわなければならない、代替品にも注文が殺到して在庫が底をつく悪循環が生まれました。事態を重くみた厚生労働省が流通・生産現場に踏み込んだ介入をするほどの状況で、当科でもこの主力製品が数ヶ月にわたり入手できない日がつづきました。

久しぶりに納品があり、「一息ついた!」と思ったら、今度はどうやら診療用の手袋が怪しいらしいでは

ないですか。

歯科治療において、手袋は感染対策の要です。現在ほぼすべての歯科医院でニトリル製使い捨て手袋が主流ですが、この素材は石油由来の合成ゴムで、その多くが東南アジアで製造されて日本の医療現場に届いています。原材料価格の変動や国際的なサプライチェーンの不安定さは、医療用手袋の供給とも決して無縁ではないはずです。

麻酔薬も手袋も、根底にある課題は共通しています。特定の製品や地域への依存度が高い供給構造は、どこか一点に問題が生じたとき、現場に思わぬ影響を及ぼします。私たちが「当たり前」と感じている診療の日常は、見えないところでいくつもの細い糸によって支えられているのかもしれません。

手袋と麻酔薬の在庫をこっそり確認するのが、最近の朝の習慣になってしまいました。「今日も大丈夫」その確認がいつか不要になる日を、静かに願っています。



## 患者確認の徹底による 安全な医療の実現に向けて

■医療安全副看護師長 宮本 涼子



医療において、患者さんのお名前を正しく確認することは、すべての検査や治療を安全に行うための最も重要な基本であり、命を守る出発点です。

当院では今年度、この患者確認をより確実なものにするため、看護師、事務職、臨床工学技士、診療放射線技師など、さまざまな職種が参加する「患者誤認防止グループ」を新たに発足いたしました。

私たちは今年度、「患者誤認ゼロ」を目標に掲げ、本格的な取り組みを開始いたします。医療の現場には、外来や病棟でのケア、医療機器の操作、各種検査や処置など、さまざまな場面があります。今後は、どの職員であっても「いつも通り」という慣れに頼ることなく、「決められた正しい手順に沿った確認方法」を徹底し、病院全体で取り組んでまいります。

さらに、グループメンバーが各部門に対して定期的に院内ラウンドを実施し、現場での確認が確実に

行われているかを確認するとともに、必要に応じた指導や支援を行う活動も順次開始してまいります。

このように職員一同、確実な確認に努めてまいります。安全な医療の提供には患者さんのご協力が欠かせません。

診察や検査の際など、さまざまな場面でお名前をお伺いすることがございます。その際は、同姓同名による取り違えを防ぐため、ぜひ「フルネーム」と「生年月日」をお声に出してお知らせいただきますようお願いいたします。

患者さんにも、安全・安心な医療のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

今後も職員一同、より安全な医療環境づくりに努めてまいります。



表紙写真 ● パラオオウムガイ(学名: Nautilus belauensis)

頭足類の祖先は5億年前に現れ、オウムガイの仲間、アンモナイトの仲間、イカ・タコの仲間の3種に分かれた。アンモナイトは恐竜と同時期の6500万年前に絶滅したが、オウムガイは5億年前から、基本的な体の構造は変えずに生き残り、「生きた化石」といわれる。